

# 秩父宮ラグビー場補植作業について



プラグスタッカー



補植作業の様子

秩父宮ラグビー場は、試合による損傷から、年々、夏芝の芽数が減少しているため、補植により芽数を増やすことで、秋から冬のシーズンに安定したグラウンドコンディションを確保することを目的として、今年度は6月1、3、7日の3日間にわたり補植作業を実施しました。そこで、今回の作業報告を通して、補植とはなにかについてご紹介させていただきます。

**◆補植とは？**

国立競技場・秩父宮ラグビー場は、夏芝と冬芝を上手く切替え、一年中緑の芝生を育てることが可能となりました。冬芝から夏芝への切替えは、コアリングやバーチカルカットといった更新作業を行い、自然切替えを待ちますが、損傷の激しい部分、ラグビー場の場合は特にセンター付近やメイソスタンド側10M付近は、スクラムやタックルなど攻防のせめぎあいが多いため夏芝の芽数が減少し、更新作業だけでは切替えが望めない場合があります。このような場合に行う作業が補植です。

補植は主にアウトフィールドや圍場といった、損傷が少なく生育が順調な芝生と、損傷した芝生を植え替えます。作業は、プ

ラグスタッカーと呼ばれる、筒状（厚さ約5cm）に芝生をくり抜く道具を使用します。植え替えることで、夏芝のランナー（地表を這うように伸びる茎又は枝）により、損傷箇所を覆うことができます。

## ◆補植作業を通して

例年、芝生管理者と国立競技場職員を中心に、補植作業を実施していますが、今年度は例年に比べ芽数が減少していたため、初めての試みとして、明治大学MRC・帝京大学・拓殖大学・日本大学の各ラグビー部、四谷第六小学校のご協力をいただき、多くの人数で広範囲におよぶ作業が実施可能となりました。

作業範囲はバックスタンド側中央部から22Mライン内側、サイド5Mライン内側の約1,500㎡を予定していましたが、実際の作業は予想を大きく上回り、約2,500㎡を補植することができました。これは、数にすると約30,000個におよび、1日あたり1人平均500個を補植したことになります。

原稿執筆時点で、補植から約2ヶ月が経過し、天気にも恵まれ、植え込んだ苗は定着し順調に生育しています。今回の補植作業により、グラウンドコンディションはとて良い状態です。今後も選手のため、コンディション維持に努めていきたいと思えます。

最後になりましたが、補植作業にご協力いただきました皆様、にこの場をお借りして御礼申し上げます。

# 国立霞ヶ丘競技場避難誘導訓練の実施

国立競技場（陸上競技場）では、当施設の利用者の安全確保を図る観点から、東海沖地震発生を想定した避難誘導訓練を実施しました。

## I 訓練の概要

### ①目的

3月11日に東北地方を襲った大地震を教訓として、今後想定される地震等の災害発生時に、各施設窓口スタッフによる施設利用者への避難誘導など、安全確保を迅速に図るための訓練として実施

### ②日時

2011年6月28日（火）13時30分～14時30分  
※定休日

### ③想定内容

東海沖地震の発生（マグニチュード9.0 震度6強）

### ④対象施設及び参加人数

・国立霞ヶ丘競技場内営業施設（トレーニングセンター、体育館、室内水泳場、警備室、事業課総合受付）、窓口スタッフ  
フ【22名】  
・テナント各社【5社21名】  
・国立競技場関係職員【27名】  
（参加者合計70名）

### ⑤訓練内容

■防災センターから、地震発生  
の非常放送（行動開始）  
■営業施設窓口スタッフによる  
利用者の避難誘導（一時避難

場所から最終避難場所まで）  
■テナント関係者及び国立競技場職員自身の避難誘導（事務所から最終避難場所まで）

今回の避難誘導訓練を通じて、いかに点在する各施設に対し、素早く非常時の連絡及び避難誘導が実施できるか、現場スタッフが状況に応じて、冷静かつ適切に対応できるか、被害を最小限に食い止めるために慌てず協力して行動できるか等の課題を確認できました。

また、こうした訓練を継続的に行うことが重要であることを再認識した訓練となりました。



最終避難場所の様子